

2015年度
社会福祉法人ひかりの家
事業報告

2015年度事業報告

【法人本部事業報告】

制度改革から4年が経過し、児童発達支援センターとしての事業を全て満たした上で歩んだ。

法人の働きとして、地域に開かれた働きとなっているか、利用者のニーズに对应されているか、各事業の運営と質を管理していく必要がある。各事業を支える備えを法人としては行ってきたが、寄付金額は低迷していることが今後の課題である。昨年度は、NTT関東グループより大口の寄付をいただき、園庭砂場整備費用にあてる予定である。

また、地域課題に常に向き合い、法人として前進することが求められている。自立支援協議会等で積極的に情報収集を行い、長期計画を見据えつつ事業の方向性等を決めていく。

- | | | |
|----------|-------|--|
| 1, 理事会 | 5月26日 | 2014年度事業報告・決算報告 等 |
| | 3月15日 | 評議員選任の件
2015年度補正予算
2016年度事業計画・予算 等 |
| 2, 監事会 | 5月23日 | 会計帳簿及び理事会評議員会の適正審査 |
| 3, 評議員会 | 5月26日 | 2014年度事業報告・決算報告 等 |
| | 3月15日 | 理事・監事選任の件
2014年度補正予算
2015年度事業計画・予算 等 |
| 4, 寄付金関係 | | 寄付金額 ￥2,314,903 受け入れた。 |

5, 借地

市川三郷町所有地、八乙女神明宮境内地、市川幼稚園の一部を借地継続し、学園園舎及び園庭として利用する。

6, 学園援助

児童発達支援センターで行う各事業運営が厳しい際は、援助を行うが、昨年度はその必要はなかった。

【児童発達支援センター ひかりの家学園 事業報告】

児童発達支援センターとして、通園幼児部及び保育所訪問事業の働きを行った。通園は、38名とたくさんのお子さんが通い、併行通園児も少なかったことから、年間通して出席率もよく、80%を超える月もあり、常に子どもたちに満たされた1年間となった。昨年度は、アメリカから転居してくるお子さんやアメリカへ転居されるお子さんがおり、異文化に触れている子どもたちとの貴重な出会いもあった。ADHDの特性の強いお子さんがいたため、いつも以上に環境の変化等に気を配りながら保育を進めなければならない場面があり、職員にとっても勉強となった。また、11名と多くの年長児がおり、それぞれ希望する進路が明確であったため、地域の学校に進む子どもたちは、学習につながるような個別指導を教材を用いながら行った。

4月当初より、在籍数も多かったことから、未就園のお子さん方のための親子ルームを定期的で開催した。園の雰囲気を楽しむ、課題のあるお子さんにとって安心した遊びの提供、親御さんは子育ての相談をしやすい機会となった。利用児のほとんどが入園に繋がった。

職員は日々努力しながら適切な療育指導を行うことができた。心身的に重度のお子さんの受け入れに際しては、職員の手が配置基準では足りないことを感じた。また、特性の強いお子さんに対しても職員数を増やし対応にあたった。

保育所等訪問支援事業は、地域の感心も強く、事業が少しずつ浸透し始め、併行通園のお子さんだけでなく、単独の利用児も増えた。また、小学校就学後の継続要望もあることから、ニーズに応えられるようにしていく。

ひかりの家学園で過ごすことによって、一人一人の個性が尊重され、社会性や個人力が伸ばせるようにと願っている。

事業統計については、以下のとおりである。

療育の基調

- (1) すべての児童は、それぞれ成長発達を遂げる場を備えられるべきであり、社会はそれぞれを保証する義務がある。このために立てられた施設としての責任を負う。
- (2) 早期発見・早期療育は成長発達にとって重要であり、早期処遇を実現すべく関係諸期間との連携を深める。
- (3) 集団としての療育力を注視すると共に、個別課題の発見と達成を図る。
- (4) 障害の軽減に取り組むと共に、個人として尊重されるよう家庭及び社会の理解・受容の促進に努める。
- (5) 施設機関および障害児（者）問題の社会化に努める。
- (6) 市川幼稚園との共働を重視し、両園園児の成長に寄与する。
- (7) 職員資質向上と専門諸機関の協力を得て処遇の充実を図る。

【児童発達支援センター 児童発達支援事業】

1. 定員30名

2. 園児

(1) 年齢(2015.3月1日現在)

年齢	2	3	4	5	6	計
男	1	2	6	11	8	28
女	0	0	3	3	3	9
計	1	2	9	14	11	37

(2) 在園期間

期間	6ヶ月未満	～1年	～2年	～3年	～4年	～5年	合計
男	1	9	10	5	2	1	28
女	1	1	2	2	2	1	9
計	2	10	12	7	4	2	37

(3) 入退園者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入園	6	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	12
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
初日在籍	32	33	34	35	36	36	36	36	37	36	37	37	

(4) 在園児年齢

年齢	1	2	3	4	5	6	計
男	0	1	4	7	8	8	28
女	0	0	0	3	3	3	9
計	0	1	4	10	11	11	37

(5) 入退園前後の状況

入園前の状況	人 数	退園後の状況	人 数
在 家 庭	8	支 援 学 校	8
保 育 園	3	福 祉 施 設	0
幼 稚 園	0	小学校（特別支援学級）	3
他 通 園	1	小学校（普通学級）	1
		幼 稚 園	0
		保 育 園	0
		支援学校幼稚部	0
		永 眠	0
計	12	計	12

(6) 市町村別分布（2016.3.1在園児）

市町村	男	女	計
甲 府	8		8
中 央	4	4	8
韮 崎	2	0	2
南アルプス	9	2	11
甲 斐	1		
笛 吹			
山 梨			
昭 和	1	1	2
南巨摩	富士川	3	3
	身 延	1	1
	早 川		
西八代	南 部		0
	上九一色		
	市川三郷	1	1
下 部			
合計	29	8	37

(7) 市町村別分布累計（1977.4.1～2016.3.1）

市町村	人数	
甲 府	36	
中 央	56	
韮 崎	13	
南アルプス	81	
甲 斐	16	
笛 吹	8	
山 梨	1	
昭 和	20	
南巨摩	富士川	37
	身 延	9
	早 川	2
西八代	南 部	6
	上九一色	1
	市川三郷	28
下 部	1	
合計	315	

3. 療育

(1) 保育時間 ◇平日 午前8時00分 ~ 午後4時30分

◇土曜日 毎月第3土曜日 親子音楽療法

(2) 送迎車運行状況 週日2台運行 A:大型 B:大型〈白〉

A		かえり	
8:00	園発	3:00	園発
8:15	櫛形	3:15	櫛形
8:20	若草	3:20	若草
8:40	白根	3:40	白根
8:45	八田	3:45	八田
9:10	東南湖	4:10	東南湖
9:20	園着	4:20	園着
B			
7:55	園発	3:00	園発
8:00	豊富、中道土手	3:05	豊富、中道土手
8:10	伊勢	3:15	伊勢
8:15	貢川	3:20	貢川
8:35	大里	3:35	大里
8:40	国母	3:40	国母公園
8:45	小井川	3:47	下河東
8:50	山王団地	3:47	小井川
9:00	園着	3:50	山王団地
		4:00	園着

(4) 内容

(イ) 園児が多数のため、それぞれの課題等々のプログラムに応じたグループを4つに分けて指導を行った。

(ロ) 身辺自立に向けての指導は、個々のレベルにあわせてプログラム化し重点的な取り組みをした。

(ハ) 水泳療育は、甲西町のブルーアーススイミングクラブと専属契約し、4月より、3月まで通して週1回、1名のコーチの指導により充実した療育がなされた。

(ニ) 「生活指導」は、立位・歩行・発声・感触・リハビリ・着脱・排泄・集団等 個々の課題・興味を勘案した遊びの展開を試みた。

(ホ) 「生活体験学習」は、日常生活で体験できないような社会経験・自然環境・特別プログラム等により調和のとれた心身の発達を目指した。(クッキング・遊園地遊び・公園の散歩・買い物・電車体験学習等々)

(ヘ) 「個別支援計画書」を学期ごとに作成し、園で行われている療育を親御さんに書面で伝えている。親御さんの要望、希望を汲みとった内容も入り、共通理解、共に歩む姿勢がみられる計画をたてている。

の見極めと、日常の生活指導課題の再検討等、園児の個別化に資する日とした。

(ト) 幼稚園との合同職員会によって、双方の主体性を尊重しながら合同のプログラムを多く持つことができた。また日常保育の中で自然な形での交流を重視し、「共に育つ」ことを目指しての積み上げをはかった。

(チ) 具体的な個別指導の向上を図るため、毎月1回心理の専門家、有賀文美先生に療育現場を指導していただいた。

(リ) 昨年に引き続き、臨床心理研究所：松井紀和先生に、一人一人を観察診断していただいた。その結果に基づき、職員と親がそれぞれの課題の捕らえ直しを行うことが出来た。

(ヌ) 音楽療法は、松井紀和先生のご指導の下、講師金丸かおる先生により行った。毎週1回、個別指導を行い、月一回集団的指導がなされた。そのために様々な音色の楽器を用意し、有意義に展開することが出来た。また、年長児に対しては、年度末に面談を行い、成果を親に返した。

(ネ) 「クラス活動」は、クラス費を設け、各クラス毎の目標、目的に沿った園外活動が行われている。一人一人のペースに合ったより細かい体験が行われている。(電車、お買い物、食体験、動物園、公園など)

4. 行事等

1年間の行政等を列挙すると以下のようであった。

月	行事等	その他
4月	1日 始業日 3日 入園式 10日 イースター礼拝 22日 さちかぜ号 18日 親子音楽療法 20～24日 家庭訪問 24日 誕生会	14日 山本先生・三井先生来園 17日 職員会議 20日 避難訓練 22日 有賀先生来園 27日 年長児就学説明会 28日 検便検尿
5月	8日 親子遠足（まかいの牧場） 20日 保育参加 23日 親子音楽療法 27日 誕生会 29日 花の日礼拝	15日 職員会議 21日 避難訓練 22日 長田先生来援 25日 内科検診 26日 理事会 28日 有賀先生来園
6月	7日 メモリアルコンサート 18日 体験学習 20日 親子音楽療法（父の日） 25日 誕生会	1日 避難訓練 12日 新人研修 16日 かえで支援学校見学 山本先生・三井先生来園 17日 梨大付属支援学校見学 19日 職員会議 20日 あけぼの支援学校見学 23日 わかば支援学校見学 25日 有賀先生来園・ケース検討会 27日 甲府支援学校見学
7月	18日 親子音楽療法 22日 誕生会 24日 ファミリーピクニック （鉄道博物館） 27～31日 家庭訪問	7日 山本先生来園 10日 有賀先生来園・ケース検討会 11日 ふじかわ分校見学 17日 職員会議 22日 救護法講習会 28日 有賀先生来園

8月	5日 公開保育 11日 1学期終業日 12～16日 夏季在宅指導 17日 始業日 26日 誕生日	4日 山本先生来園 6日 盲学校訪問相談 17日 入園式・職員会議 19日 避難訓練 26日 就学勉強会 28日 有賀先生来園
9月	1日 防災訓練 9日 敬老会保育参加 19日 親子音楽療法 25日 誕生会	1日 避難訓練 2日 合職 8日 山本先生来園 14日 内科検診 17日 合職 18日 長田先生来園・職員会議 25日 有賀先生来園
10月	10日 親子音楽療法 17日 運動会 29日 誕生会 30日 秋の遠足	8日 検便検尿 15日 合職 20日 職員会議 23日 長田先生来園 27日 山本先生来園・合職 29日 有賀先生来園・避難訓練
11月	11日 幼児祝福式 18日 収穫感謝祭礼拝(合同) 19日 カレー作り 21日 親子音楽療法 25日 誕生会	12日 長田先生・有賀先生来園 17日 山本先生来園 20日 職員会議 24日 避難訓練 30日～ 個人面談
12月	9・10日 クッキー作り 19日 クリスマス祝会 24日 誕生会 25日 終業日 26～1/4 冬季在宅指導	11/30～4日 個人面談 17日 有賀先生来園 22日 山本先生・長田先生来園 25日 避難訓練・職員会議
1月	5日 始業日 16日 もちつき大会 29日 誕生会	14日 長田先生来園 15日 職員会議 20日 保育参加 22日 避難訓練 26日 山本先生来園 27日 監査指導 29日 ケース検討会
2月	17日 公開保育 19日 誕生会 20日 親子音楽療法	1日 感染症予防研修 8日 避難訓練・消火訓練 16日 山本先生来園・松井先生療育相談 19日 職員会議 25日 有賀先生来園 29日 ケース検討会
3月	4日 お別れ遠足 12日 誕生会 21日 卒園式 24日 イースター礼拝 25日 終業日 26～31日 春季在宅指導	1日 山本先生来園・ケース検討会 4日 有賀先生来園 9日 入園準備説明会 16日 避難訓練 30日 職員会議

- ※（合）及び合同職員会議は、市川幼稚園との合同を表す。
 合同職員会は、毎月随時。
 保護者会は、不定期
 入園児には、市川幼稚園園児が参加して共に仲間として迎えた。
 ☆音楽療法は、毎週木曜日。
 ☆スイミングは毎週月曜日

2015年度実習生受入れ

8/17～8/25	山梨学院短期大学	1名
8/24～9/3	帝京科学大学	1名
8/26～9/8	山梨学院短期大学	1名
9/1～9/16	山梨県立大学	2名
9/4～9/12	山梨学院短期大学	1名
9/4～9/18	鎌倉女子大学	1名
2/18～3/4	身延山大学	1名
2/18～2/26	山梨学院短期大学	1名
2/29～3/10	山梨大学短期大学	1名
3/34～3/23	山梨県立大学	2名
3/10～3/18	山梨学院短期大学	1名
	計	13名

5. 家庭との連携

広範な地域に点在しがちな保護者が、連帯して課題解決の力を獲得するよう、保護者会を定期的に関き、学びと交わりの時を持った。支援学校見学をし、卒園後についても早期に考えられるよう理解を深めた。学園と家庭が視点をあわせ、理解を共通にするためのプログラム（家庭訪問・個人面接・療育参加等）を行った。親子行事には積極的に参加した。

保護者に関することは以下のものであった。

月	日	プログラム	参加者
4	1 5	保護者会・年間行事・顔合わせ等 〈会長：井上 〉 〈母親部長：佐野 会計：内田 書記：古屋〉	4名
	2 0～2 4	家庭訪問	全家族
5	8	親子遠足(まかいの牧場)	2 4 家族
	3 1	球技会	1 6 名
	2 0	保育参加	3 1 名
6	1 6	かえで支援学校見学	6名
	1 7	梨大付属支援学校見学	4名
	2 0	あけぼの支援学校見学	3名
	2 3	わかば支援学校	8名
	2 7	甲府支援学校見学	3名
	3 0	花植え	2 3 名
7	1 1	わかば支援学校 ふじかわ分校見学	2 家族
	1 4	卒園児のご父兄を迎えての話	1 5 名
	2 4	ファミリーピクニック	1 7 家族
8	2 2	PTA清掃	1 5 名
9	9	敬老会	3名
10	1	共同募金街頭活動	3名
	1 7	運動会	3 5 家族
	3 0	バザー役員会(幼稚園役員と)	2名
11	8	バザー〈市川幼稚園合同〉	2 0 家族
	1 1	幼児祝福式	2 2 名
12	11/30～4	個人面談	全家族
	8	PTA清掃・保護者会	2 4 名
	1 9	クリスマス祝会	3 6 家族
1	1 6	お餅つき	1 8 家族
	2 0	保育参加	2 0 名
2	9	保護者会 役員引き継ぎ	2 1 名
3	2 1	卒園式 保護者会主催茶話会	2 5 家族

6. 地域との関わり

- (1) 松井紀和先生の「発達相談会」は、1回行った。
- (2) 毎月2回、南部町つくしんぼ教室に参加し、地域の障害児の保育にあたった。また、毎月1回、富士川町のびっこ教室に参加し、地域の課題の見られるお子さんへの保育にあたった。
- (3) 対象地域町村の保健婦と福祉担当者を1月に訪問し、学園への協力を要請すると共に、障害児の存在等の実情把握に努めた。
- (4) ボランティアによる園児への関わりをもってもらった。
- (5) 実習生は、山梨学院短期大学より5名、山梨県立大学より3名を受け入れた。
- (6) 公開保育を行った。35名の参加者があった。参加者の多くは、近隣の保育所の保育士や市町村の保健士など、直接処遇に関わっている方々であった。

7. アネモネ親子ルームについて

毎月1～2回、10:00～11:15、ひかりの家学園のアネモネ館の2階において、未就園児親子が集い活動を行った。年間10回行うことができた。毎回2～3家族の参加を得て、おあつまり、お散歩、園庭あそび、プールで水遊び、季節の製作、クッキング等を楽しんだ。初めての小集団で、緊張や不安も見られたが、積み重ねにより笑顔で楽しく過ごせるようになり、入園につながっている。担当職員は、発達状況に合った活動を考え提供し、未就園児親子が抱える不安にも相談に応じ、様々な事を学び資質向上の機会となっている。

【児童発達支援センター 放課後等デイサービス事業】

1. 定員10名

2. 学年

学年	1	2	3	4	5	6	中学生 他	計
放課後	1	2	1	0	0	2	3	9
音楽療法	1	2	0	0	0	2	2	7
計	2	4	1	0	0	4	5	16

3. 地域

	甲府市	中央市	韮崎市	南ア市	甲斐市	昭和町	富士川町	峡南	計
放課後	0	0	0	0	0	0	2	7	9
音楽療法	0	1	0	4	0	0	2	0	7
計	0	1	0	4	0	0	4	7	16

4. 利用状況

放課後等デイサービスは、峡南地域に在住で、わかば支援学校ふじかわ分校に通う児童が学校終了後、9名利用した。多くは、ひかりの家学園の卒園児であり、卒園後の成長を見守りつつ、親御さんにも安心感を与えられる場所となっている。余暇活動の中で、乗馬体験、お買い物、外食など多くの体験を通し成長が見られた。日々の身辺自立に向けても、個別支援計画書を作成し支援を行ってきた。夏休み、冬休みなどの長期休暇には、利用時間を伸ばし、給食を提供するなどして対応した。

音楽療法は、毎月第3土曜日11時から音楽療法士の元、集団で音楽療法を楽しんでいる。

毎回6～8名が各地域から参加。多くはひかりの家学園の卒園児で、在園中も音楽療法を経験しているため戸惑うことなく参加している。保育士も一緒に参加し、楽しく過ごし成長した姿をうれしく思っている。

【児童発達支援センター 保育所等訪問支援事業】

1. 年齢

	年長	年中	年少	未満児	合計
男	5	2	0	0	7
女	1	0	0	0	1

2. 地域

身延町内幼稚園	南部町内保育所	南ア市内保育所	南ア市内幼稚園	中央市内保育所	甲府市内保育所
0名	1名	1名	2名	1名	0名
富士川町内保育所	笛吹市内託児所	西八代郡内幼稚園			
2名	0名	1名			

3. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数	4	5	5	5	6	6	7	8	8	8	8	8	8
訪問数	4	7	8	9	4	8	9	8	15	13	12	10	107

昨年度の4ケースに合わせ、今年度は新たに4ケースの契約があり、全ケース8となった。1契約につき、月2回の訪問を基本に行った。園側の行事や、悪天候のために2回の訪問をできなかった月もあった。また、月に1回の訪問でもよい順調なケースもあった。訪問先の園において、園児が困っている様子、職員の支援方法をみて、適切なアドバイスをを行い、園児が過ごしやすくなるよう支援を行ってきた。目標をたて、支援方法の確認、支援方法の見直しを、訪問支援員、訪問先の職員、保護者とを行い、確実に成長している姿をともに確認できている。中には難しいケースもあるが、必要とされている専門知識、支援方法を伝えることに大きな意味がある。子ども達が集団の中で成長できるよう支援を行っていく。

資金収支計算書

(自) 平成27年 4月 1日 (至) 平成28年 3月31日

社会福祉法人 ひかりの家

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入				
	老人福祉事業収入				
	児童福祉事業収入				
	保育事業収入				
	就労支援事業収入				
	障害福祉サービス等事業収入	104,800,000	103,625,169	1,174,831	
	生活保護事業収入				
	医療事業収入				
	その他の事業収入				
	借入金利息補助金収入				
	経常経費寄附金収入	2,450,000	2,314,903	135,097	
	受取利息配当金収入	30,500	27,474	3,026	
	その他の収入	1,450,000	1,286,620	163,380	
流動資産評価益等による資金増加額					
事業活動収入計(1)	108,730,500	107,254,166	1,476,334		
支出					
人件費支出	69,195,000	66,801,739	2,393,261		
事業費支出	7,900,000	6,488,168	1,411,832		
事務費支出	6,611,500	4,919,603	1,691,897		
就労支援事業支出					
授産事業支出					
利用者負担軽減額					
支払利息支出	21,000	20,230	770		
その他の支出					
流動資産評価損等による資金減少額					
事業活動支出計(2)	83,727,500	78,229,740	5,497,760		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	25,003,000	29,024,426	△ 4,021,426		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入				
	施設整備等寄附金収入				
	設備資金借入金収入				
	固定資産売却収入				
	その他の施設整備等による収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	1,300,000	1,300,000	0	
	固定資産取得支出	430,000	429,840	160	
固定資産除却・廃棄支出					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
その他の施設整備等による支出					
施設整備等支出計(5)	1,730,000	1,729,840	160		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 1,730,000	△ 1,729,840	△ 160		
その他の活動による収支	収入				
	長期運営資金借入金元金償還寄附金収入				
	長期運営資金借入金収入				
	長期貸付金回収収入				
	投資有価証券売却収入				
	積立資産取崩収入				
	その他の活動による収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	長期運営資金借入金元金償還支出				
長期貸付金支出					
投資有価証券取得支出					
積立資産支出	5,680,000	5,675,840	4,160		
災害損失支出					
その他の活動による支出					
その他の活動支出計(8)	5,680,000	5,675,840	4,160		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 5,680,000	△ 5,675,840	△ 4,160		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	17,593,000	21,618,746	△ 4,025,746		
前期末支払資金残高(12)	108,901,938	108,901,938	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	126,494,938	130,520,684	△ 4,025,746		

社会福祉事業区分 事業活動計算書

(自) 平成27年 4月 1日 (至) 平成28年 3月31日

社会福祉法人 ひかりの家

(単位：円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益			
		老人福祉事業収益			
		児童福祉事業収益			
		保育事業収益			
		障害福祉サービス等事業収益	103,625,169		103,625,169
		その他の事業収益			
		経常経費寄附金収益	2,314,903		2,314,903
		その他の収益	68,702		68,702
		サービス活動収益計(1)		106,008,774	0
	費用	人件費	67,477,579		67,477,579
		事業費	6,488,168		6,488,168
		事務費	4,919,603		4,919,603
		就労支援事業費用			
		授産事業費用			
		利用者負担軽減額			
		減価償却費	5,989,730		5,989,730
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 2,481,136		△ 2,481,136
		徴収不能額			
		徴収不能引当金繰入			
その他の費用					
サービス活動費用計(2)		82,393,944	0	82,393,944	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		23,614,830	0	23,614,830	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益			
		受取利息配当金収益	27,474		27,474
		有価証券評価益			
		有価証券売却益			
		投資有価証券評価益			
		投資有価証券売却益			
		その他のサービス活動外収益	1,217,918		1,217,918
		サービス活動外収益計(4)		1,245,392	0
	費用	支払利息	20,230		20,230
		有価証券評価損			
		有価証券売却損			
		投資有価証券評価損			
		投資有価証券売却損			
		その他のサービス活動外費用			
サービス活動外費用計(5)		20,230	0	20,230	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		1,225,162	0	1,225,162	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		24,839,992	0	24,839,992	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益			
		施設整備等寄附金収益			
		長期運営資金借入金元金償還寄附金収益			
		固定資産受贈額			
		固定資産売却益			
		事業区分間繰入金収益			
		事業区分間固定資産移管収益			
		その他の特別収益			
		特別収益計(8)		0	0
	費用	基本金組入額			
		資産評価損			
	固定資産売却損・処分損				
	固定資産除却・廃棄費用				
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)				

	用	国庫補助金等特別積立金積立額				
		災害損失				
		事業区分間繰入金費用				
		事業区分間固定資産移管費用				
		その他の特別損失	699,877		699,877	
		特別費用計(9)	699,877	0	699,877	
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 699,877	0	△ 699,877	
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	24,140,115	0	24,140,115	
	繰差 越額 活の 動部 増 減		前期繰越活動増減差額(12)	165,074,233	165,074,233	0
			当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	189,214,348	165,074,233	24,140,115
		基本金取崩額(14)	0	0	0	
		その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	
		その他の積立金積立額(16)	5,000,000	0	5,000,000	
		次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	184,214,348	165,074,233	19,140,115	

貸借対照表
平成28年 3月31日現在

社会福祉法人 ひかりの家

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減	勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	136,074,070	112,234,713	23,839,357	流動負債	6,853,386	4,673,235	2,180,151
現金預金	126,068,951	103,843,588	22,225,363	短期運営資金借入金			
現金	109,460	99,217	10,243	事業未払金		2,164,282	△ 2,164,282
預金	125,959,491	103,744,371	22,215,120	その他の未払金			
有価証券				支払手形			
事業未収金		8,391,125	△ 8,391,125	役員等短期借入金			
未収金	1,923,180		1,923,180	1年以内返済予定設備資金借入金	1,300,000	1,340,460	△ 40,460
未収補助金	8,081,939		8,081,939	1年以内返済予定長期運営資金借入金			
未収収益				1年以内返済予定リース債務			
受取手形				1年以内返済予定役員等長期借入金			
貯蔵品				1年以内支払予定長期未払金			
医薬品				未払費用	3,939,693		3,939,693
診療・療養費等材料				預り金			
給食用材料				職員預り金	1,613,693	1,168,493	445,200
商品・製品				前受金			
仕掛品				前受収益			
原材料				仮受金			
立替金				賞与引当金			
前払金				その他の流動負債			
前払費用				固定負債	19,287,570	19,842,370	△ 554,800
1年以内回収予定長期貸付金				設備資金借入金	15,600,000	16,830,640	△ 1,230,640
短期貸付金				長期運営資金借入金			
仮払金				リース債務			
その他の流動資産				役員等長期借入金			
徴収不能引当金				退職給付引当金	3,687,570	3,011,730	675,840
固定資産	167,812,368	168,367,395	△ 555,027	長期未払金			
基本財産	132,486,581	136,848,428	△ 4,361,847	長期預り金			
土地	7,700,000	7,700,000	0	その他の固定負債			
建物	154,458,463	154,458,463	0	負債の部合計	26,140,956	24,515,605	1,625,351
減価償却累計額	△ 29,671,882	△ 25,310,035	△ 4,361,847	純資産の部			
定期預金				基本金	9,680,676	9,680,676	0
投資有価証券				国庫補助金等特別積立金	63,850,458	66,331,594	△ 2,481,136
その他の固定資産	35,325,787	31,518,967	3,806,820	その他の積立金	20,000,000	15,000,000	5,000,000
土地				人件費積立金	10,000,000	5,000,000	5,000,000
建物				修繕積立金	5,000,000	5,000,000	0
構築物	3,591,009	3,591,009	0	備品等購入積立金	5,000,000	5,000,000	0
機械及び装置	2,113,000	2,113,000	0	次期繰越活動増減差額	184,214,348	165,074,233	19,140,115
車輦運搬具	13,019,505	13,019,505	0	(うち当期活動増減差額)	24,140,115		24,140,115
器具及び備品	12,211,934	11,782,094	429,840				
建設仮勘定							
有形リース資産							
減価償却累計額	△ 19,590,191	△ 18,031,428	△ 1,558,763				
権利							
ソフトウェア	259,200	328,320	△ 69,120				
無形リース資産							
投資有価証券							
長期貸付金							
退職給付引当資産	3,687,570	3,011,730	675,840				
長期預り金積立資産							
積立資産	20,000,000	15,000,000	5,000,000				
人件費積立資産	10,000,000	5,000,000	5,000,000				
修繕積立資産	5,000,000	5,000,000	0				
備品等購入積立資産	5,000,000	5,000,000	0				
差入保証金							
長期前払費用	33,760	33,760	0				
その他の固定資産		670,977	△ 670,977				
資産の部合計	303,886,438	280,602,108	23,284,330	純資産の部合計	277,745,482	256,086,503	21,658,979
				負債及び純資産の部合計	303,886,438	280,602,108	23,284,330

監査報告書

わたしたちは、社会福祉法人ひかりの家 定款16条に基づき、同法人の2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日まで）における事業報告書、財産目録、貸借対照表および収支計算書について監査を行った。

この監査に当たって、わたしたちは必要な監査手続きを実施した。

監査の結果、同法人の事業報告、財産目録、貸借対照表および計算書は、正規の簿記の原則並びに定款、諸規定に準拠しているものと認められる。

また、理事会も適正に行われていることが確認できた。

よってわたしたちは、上記の報告書および計算書が、社会福祉法人ひかりの家の2016年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の事業状況を適正に表示しているものと認める。

2016年 5月25日

監事

回本 敦 

監事

原田 恵子 